

2024 年度第 1 回 一般社団法人日本箱庭療法学会研修会のお知らせ

主催：一般社団法人日本箱庭療法学会

日 時： 2024 年 7 月 21 日（日）10：30～16：30（受付 10：00～）

会 場： 京都リサーチパーク（京都市下京区中堂寺粟田町 93）/Zoom

ご挨拶

日頃、さまざまな心理臨床の現場に携わっておられる皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。2024 年度第 1 回の全国研修会を京都リサーチパークで開催いたします。今回も引き続き、オンライン参加とオンライン参加のハイブリッドで開催させていただきます。

全体会では、ユング派分析家であり、当学会の編集委員でもある山口素子先生にご登壇いただきます。山口先生は『山姥、山を降りる—現代に棲まう昔話』（新曜社）で、山姥という存在を日本の母親イメージのひとつの表れではないかと捉えられ、山姥の昔話について分析するなかで、否定的だけとは言えない側面についてもさまざまな考察をしておられます。そして最近、出版された『親面接の実践：子と親を共に支える心理療法』（創元社）では、多くの親面接に携わられた臨床経験と多数の親面接のスーパーヴィジョンから、「親面接」というものの本質的な部分について論じておられます。

今回は、このようなご研究をベースに、「親面接における親イメージの分裂—山姥イメージを参考にしして」というお話をさせていただきます。親面接というのはそもそも何なのか、そこでは何が起こっているのかということ、山姥イメージという角度から深掘りしつつ、自分自身の臨床を振り返ることが出来る話をお伺いできるのではないかと考えております。

後半の分科会では、6 つの分科会を設けております。事例を募集している分科会もございますので、どうぞ奮ってご応募ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

2024 年 5 月吉日

一般社団法人日本箱庭療法学会 研修委員長 岩宮恵子

能登半島地震により被災された石川県、富山県、福井県にご住所を登録しておられる会員の方々につきましては、本研修会の参加費を無料とさせていただきます。多くの皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

<開催要領>

1. 定 員：オンライン参加者 120 名
オンライン参加者 無制限

会場に会場いただく「オンライン」参加と、Zoom を使用して視聴いただく「オンライン」参加を選択可能なハイブリッド形式での開催となります。

参加資格：心理臨床の事例に関して守秘義務を負う、以下の条件のいずれかを満たす方とします。

- ①一般社団法人日本箱庭療法学会会員
- ②箱庭療法を導入・または導入を検討中の児童相談所・児童養護施設等の心理職に従事されている方
- ③臨床心理学およびその関連領域で心理臨床の実践的な仕事に従事されている方
- ④心理臨床を専攻する大学院生

2. 参加費：学会員：4,000 円 非会員：7,000 円 大学院生（非会員）：5,000 円

3. **研修ポイント**：全体会、分科会の両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規程別項」第2条(3)「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、受講者には2ポイント、分科会での事例発表者には4ポイントが付与されます。

4. 研修内容

- (1) 全体会：10：30～12：30

テーマ：『親面接における親イメージの分裂 —山姥イメージを参考にして—』

講師：山口 素子（山口分析プラクシス）

親面接では最初から箱庭を作成することは少ないと思われる。親面接は子どもの治療の補助としての役割があるからだ。しかし、親面接において、セラピストが親という役割のみに注目し、無自覚に親イメージを親自身に投影し続けると、その親イメージは容易に分裂する。そしてそれはクライアントのセルフイメージの分裂を引き起こす結果ともなる。今回はそうした親面接における親イメージの分裂を、昔話に登場する山姥のイメージを参考にして論じたい。

- (2) 分科会：13：30～16：30

以下の6グループに分かれ、分科会を行います。

事例呈示を募集している分科会は、概要の最後に<事例募集>の表記のある分科会です。事例呈示希望者は、「5. 参加・発表申込について」をご参照の上、お申し込みください。

- 第1分科会 岩宮 恵子（島根大学）

『イメージが表現される「磁場」としての治療関係』

イメージ表現が治療的に働くためには、何が必要なのだろうか。イメージ自体を深く読み込むことはもちろん重要だが、治療関係のなかにある種の「磁場」のようなものが形成されたとき、その表現がより治療的なものになっていく可能性が高くなるように思う。治療の場でイメージがどのように共有されたのかということがこの治療的な「磁場」の形成に大きな影響を与えるのではないだろうか。今回は、このような治療関係における「磁場」について考えながら、学生相談という終了期限が限られるなかでのイメージを介した治療がどのように機能することが可能なのかということについてもフロアのみなさんとともに考えていきたい。

（事例提供者：奥原 理恵子氏）

- 第2分科会 梅村 高太郎（京都大学大学院教育学研究科）

『親の支配からの解放 —「毒親」概念を切り口として—』

近年、もっぱら母娘の関係を念頭に、「毒親」という言葉が書籍やメディアで取り上げられることが多い。この言葉は、あえてセンセーショナルな表現を用いることで、親から受ける支配の問題を浮かび上がらせるものと言えよう。心理臨床においても、こうした親の支配にクライアントが無自覚に囚われ続けているような場合がある一方で、親から受けた影響を過大視し、自分から強くこだわってしまうような場合もあると思われる。本分科会では、「毒親」概念を切り口として、親の支配の問題、そしてそこからの解放について考える。その上で、ご提供いただいた事例の検討を通じて、こうした親の支配がテーマとなる事態においてイメージがもつ意義を探りたい。

<事例募集>親との関係が問題となっている事例（講義自体は母娘の関係を中心に展開するが、父・母・息子・娘の組み合わせは問わない）。箱庭・夢・描画など何らかのイメージ素材が含まれていることが望ましい。

- 第3分科会 河合 俊雄（京都こころ研究所）

『具体性のない語りを繰り返すクライアントとイメージ』

思春期はある意味で、「人生とは?」、「世界とは?」のような抽象的な問いと語りが重要になる時期であるが、40歳になり、50歳になってもそのような語りを繰り返すクライアントが増えているように思われる。主体性が欠如しているように見えるので、発達障害と診断されていることもある。そのようなクライアントがどのように生のものや現実に至るのか、その際にイメージがどのような役割を演じるのかを検討したい。

（事例提供者：廣部 愛美氏）

● 第4分科会 桑原 知子（放送大学）

『クライアントの「表現」としての、【語り】【行動】【外見】【イメージ】【主訴】など ―セラピストはそれらをどのように受け取るのか―』

心理療法において、クライアントは様々な形で、セラピストに語りかける。言葉という表現はもちろんだが、遅刻やキャンセル、沈黙という形で自らを表現することもある。洋服や髪型などの「外見」がクライアントの「姿」を現している場合もあるだろう。それ以外に、箱庭や夢、さらにはロールシャッハや風景構成法などの心理テストもまた、クライアントの「表現」である。そして、クライアントが初回に持ち込む「主訴」もまた、クライアントという人を表している、一つの「表現」として試みることもできるのではないだろうか。

これらの「表現」を、セラピストはどのように受け取り、そして、応答するのだろうか。心理療法あるいは箱庭療法の根幹ともいえる、このやりとりについて、今回は考えてみたい。

<事例募集>どこでなされたものでも、形式がととのってなくてもかまいません。クライアントの「表現」を感じて、それをどのように受け止めて返すのか、考えてみたい方は積極的に応募してみてください。

● 第5分科会 田中 康裕（京都大学大学院教育学研究科）

『自閉スペクトラム症のプレイセラピー』

どのような臨床の場であるかにかかわらず、今日われわれ臨床心理職が「自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder)」という診断を受けた子どもたちとかかわる機会は数多くある。その場合、そのような「診断」に納得できることもあれば、そうでないこともあり、その意味で、①ASD をどのように見立て、②グレーゾーンをどのように識別し、③セラピーを進める上でどのような観点をもつことが必要かについて、われわれ自身が認識を深めておかねばならない。この分科会では、島根大学の山崎基嗣氏に長期にわたる自閉スペクトラム症のプレイセラピーのプロセスを発表してもらい、上記3点も含めて、具体的に考えてゆきたい。

（事例提供者：山崎 基嗣氏）

● 第6分科会 山口 素子（山口分析プラクシス）

『昔話のモチーフと箱庭』

箱庭のアイテムには、様々な昔話の登場人物、キャラクター、道具などがある。今回はそうしたアイテムや表現された物語の中の一つを取り上げ、その元型的な意味やケースの流れの中での役割などを深く検討したい。

<事例募集>どのアイテム、テーマという限定はしないので、日本の昔話、海外のおとぎ話にかかわらず、何か関連のあるアイテム、テーマが現れた事例を広く募集します。箱庭や夢などのイメージ素材がなく、言語面接の中での登場でもよいので、どうぞご提供ください。

5. 参加・発表申し込みについて

【参加申込】

当会ホームページ (<http://www.sandplay.jp/training.html>) および右記 QR コードの申込フォームよりお申し込みください。申し込みが完了しましたら、自動返信メールが送信されます（※パソコン、スマートフォン対応）。自動返信メールが届かない場合は、日本箱庭療法学会全国研修会事務局 (training_jast@sandplay.jp) までお問い合わせください。



【秘密保持に関する誓約書の提出について】

参加申込完了後に誓約書フォームへの入力画面に移動しますので、内容をご確認いただき、必要事項にご記入ください。参加申込時に提出できなかった場合は、右記の QR コードよりフォームにアクセスしてご提出ください。

誓約書をご提出いただけない場合は、大会・研修会への参加をお断りすることになります。また、誓約内容に違反された場合、大会参加資格の停止、研修会参加資格の停止等の措置をとらせていただきますので、あらかじめご了承ください。



【事例発表申込】

参加申込フォームよりお申し込みいただけます。事例発表を「希望する」にチェックし、申込フォーム上にある<事例概要記入シート>にご記入の上、別途メール添付で日本箱庭療法学会全国研修会事務局 (training_jast@sandplay.jp) までお送りください。参加申込締切後、事例発表の可否について、事務局よりご連絡いたします。

※<事例概要記入シート>は、当会ホームページからもダウンロードいただけます。

※ **事例発表申込締切：2024年6月12日（水）**

※ **参加申込締切：2024年7月3日（水）**

- ・お申し込みは原則として先着順です。
- ・分科会コースの通知はおこないません。お申し込みいただいた分科会で受付けさせていただきます。
- ・定員となった分科会より締め切らせていただきます。希望者多数の場合にはご参加いただけない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

6. 参加費振込みについて

- ・自動返信メールを受領後に、以下の口座へ参加費をお振込みください。

<郵便局・ゆうちょ銀行から振り込まれる場合>

振込先： 00900-8-233788

加入者名： 一般社団法人日本箱庭療法学会研修委員会

<他金融機関から振り込まれる場合>

銀行名： ゆうちょ銀行

店番： 099

預金種目： 当座

店名： 〇九九店（ぜろきゅうきゅう店）

口座番号： 0233788

- ・お振込の際に、自動返信メール内に記載されている【受付番号】をお名前の前に必ずご記入のうえ、お手続きください。（例：8528 ハコニワカウ）
- ・振替用紙を使用される場合、通信欄には「2024年度第1回全国研修会参加費」と自動返信メール内に記載されている【受付番号】とお名前をご記入ください。（例：8528 ハコニワカウ）
- ・納入された参加費の返金はできませんので、あらかじめご了承ください。

※ **参加費振込締切：2024年7月5日（金）**

7. 参加証について

オンサイトで参加された方には、当日受付にて参加証をお渡しいたします。参加証が研修会証明書の代わりになりますので、大切に保管してください。

オンラインで参加された方には、終了後に参加ログにて出席確認を行い、参加が認められた方にのみ送付いたします。送付までにお時間を頂戴いたしますので、ご了承ください。なお、終了後1ヵ月を過ぎても届いていない場合は、training_jast@sandplay.jp までお問い合わせください。

8. 会場案内

京都駅よりJR嵯峨野線（山陰線）1駅
丹波口駅下車 西へ徒歩5分

※その他のアクセスについては、
京都リサーチパークホームページ
をご参照ください。

(<https://www.krp.co.jp/access/>)

9. 研修会に関するお問合せ先

一般社団法人日本箱庭療法学会
全国研修会事務局

E-mail：training_jast@sandplay.jp

